

決算を「家計」に例えると…

市の決算と家計では、お金の使い道が異なるため単純に比べられませんが、決算額を10万分の1にして「収

収入（カッコ内は科目）	金額
基本給（市税、使用料、手数料など）	7万9000円
諸手当（地方交付税など）	9万3000円
親からの仕送り（国県補助金など）	9万4000円
銀行からの借入（市債）	4万円
預金の取り崩し（繰入金）	7000円
先月の残金（繰越金）	9000円
合計	32万2000円

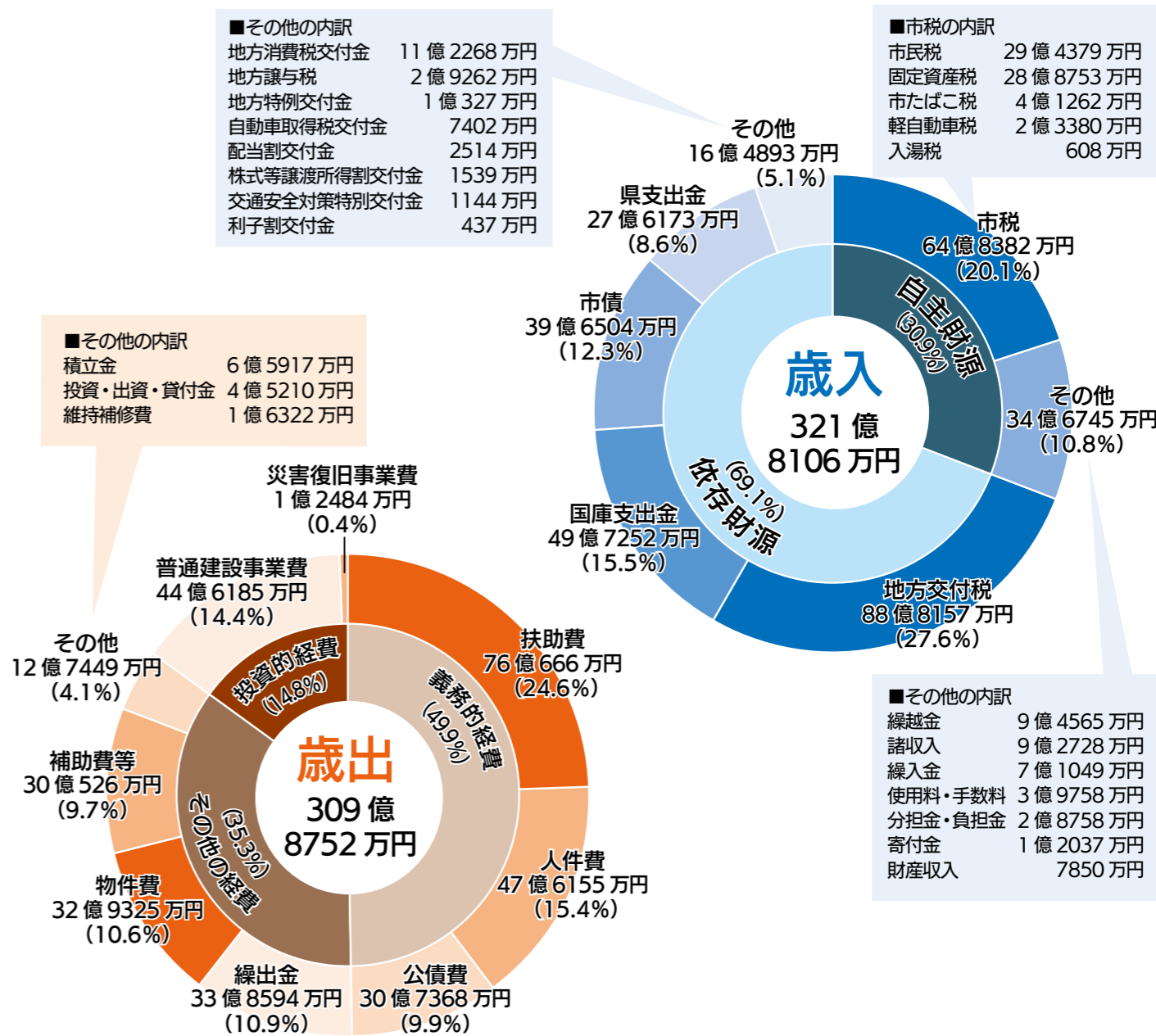
入（歳入）＝32万2000円「支出（歳出）＝31万円」として、1カ月の家計簿に置き換えてみました。

支出（カッコ内は科目）	金額
食費（人件費）	4万8000円
医療費、教育料など（扶助費）	7万6000円
水道光熱費、物品購入費用（物件費）	3万3000円
家や車などの修理、電気製品などの購入費用（維持補修費、普通建設事業費）	4万7000円
家族への仕送り、自治会費など（繰出金、補助費など）	6万4000円
借入金の返済（公債費）	3万1000円
友達に貸すお金（貸付金）	4000円
雑費（その他）	7000円
合計	31万円

市の家計簿をお知らせ

皆さんが納めた税金がいくらで、それがどのように使われたのかなど、市の台所事情を示すのが決算です。今回は、9月の市議会定例会で認定を受けた令和元年度の一般会計決算の概況などをお知らせします。

【問】市財政課財政係（☎77・8432）



市民1人当たりに使ったお金は
令和2年3月31日現在の人口
歳出決算額
309億8752万円 ÷ 6万5265人
= **47万4795円** でした。

用語の解説

- 市税** 市に納められる税金。市民税や固定資産税など
- 地方交付税** 市町村の財源の均衡化を目的に国から交付されるお金
- 国庫・県支出金** 特定の事業に対して国や県から交付されるお金
- 市債** 市が行う公共事業などの財源として国などから借入るお金
- 扶助費** 生活保護や保育所など福祉医療助成のための経費
- 公債費** 市の借金の返済金
- 繰出金** 一般会計から国民健康保険特別会計などへの支出金
- 物件費** 委託料や消耗品の購入費、賃借料など
- 普通建設事業費** 道路や水路、学校など公共施設の建設費

歳出総額は前年度比4・6%減少

一方で、国庫支出金は、子どものための教育・保育給付費の増加などにより、3億7862万円の増加となっています。

歳出総額は、前年度に比べると4・6%減の309億8752万円です。歳出の内訳をみると、普通建設事業費（施設整備や道路などの工事に必要な経費）は歳出全体の14・4%にあたる44億6185万円で産地パワーアップ事業などの終了により前年度に比べ22億7567万円の減少となりました。

一方で、扶助費（生活保護や保育所など、福祉や医療のために必要な経費）は歳出全体の24・6%にあたる76億666万円で児童扶養手当の給付月変更などにより前年度より1億3723万円の増加となりました。

また、補助費等（各種団体への補助金や負担金）は廃棄物処理施設、火葬施設整備事業の進捗などにより5億2465万円の増加となっています。

6億9959万円の黒字決算

令和元年度の決算額は、歳入が321億8106万円、歳出が309億8752万円、差し引き11億9354万円。これから翌年度へ繰り越した事業にあてる財源4億9395万円を差し引いて、実質収支で6億9959万円の黒字決算となりました。

歳入は市税が64億8382万円

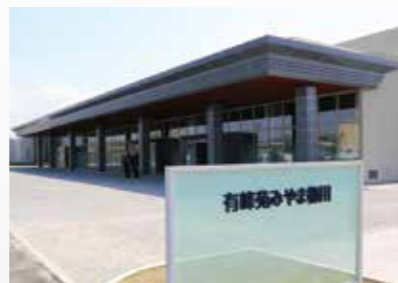
歳入総額は、前年度に比べると3・8%減の321億8106万円です。歳入の内訳をみると、皆さんが納めた市税は、歳入全体の20・1%にあたる64億8382万円で、前年度に比べ7345万円の減少となりました。

次に、国からの地方交付税は、歳入全体の27・6%にあたる88億8157万円で、前年度より9142万円の減少となりました。

また、市債は、市民文化会館整備推進費の減少などにより、前年度より5459万円少ない39億6504万円となりました。

水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり

- ▷火葬施設整備事業 7億4092万円
- ▷柳川市・みやま市一般廃棄物処理施設整備事業 4億3863万円
- ▷消防自動車購入費 8041万円
- ▷大河ドラマ招致事業 698万円



有峰苑と瀬高葬祭場を統合した新火葬施設「有峰苑みやま柳川」

柳川の地域資源や産物を誇れるしごとづくり

- ▷沖端地区ノリ共同加工施設整備事業補助金 1億5420万円
- ▷活力ある高収益型園芸産地育成事業補助金 4729万円
- ▷食の学校事業 667万円
- ▷むつごろうランドにぎわい創出事業 200万円



やながわ食の学校で有名シェフと柳川ならではの新メニューを開発

行った主な事業 令和元年度に

柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり

- ▷市民文化会館整備推進事業 5億5035万円
- ▷地域学校協働活動事業 752万円
- ▷地域コミュニティ推進費 363万円
- ▷柳川市祭り振興補助金 150万円



12月20日に開館する市民文化会館「水都やながわ」

若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じるひとづくり

- ▷保育所施設整備事業費補助金 7000万円
- ▷学校施設長寿命化計画策定事業 1497万円
- ▷定住促進事業 761万円
- ▷スクールソーシャルワーカー活用事業 529万円



中学校にスクールソーシャルワーカーを2人配置

特別会計と企業会計の決算



歳入 10億4797万円
歳出 10億4397万円

市の人口の17.9%が加入

令和元年度の決算は、歳入総額10億4797万円、歳出総額10億4397万円で差し引き400万円の黒字です。ただしこれは、令和2年4月と5月に納められた令和元年度分の保険料を繰り越して令和2年度予算で広域連合に納める分などです。

市の後期高齢者医療の加入者数は、令和元年度末で1万1714人、人口の17.9%に当たります。



歳入 88億4348万円
歳出 87億4383万円

市の人口の25.9%が加入

令和元年度の決算は、歳入総額88億4348万円、歳出総額87億4383万円で、差し引き9965万円の黒字となりました。ただし、黒字だった前年度予算から1億9598万円を繰り越しており、これを差し引いた実質単年度収支は、9633万円の赤字となっています。

令和元年度の医療費は、総額で71億6365万円（前年度より4.2%減）、1人あたりでは約42万1838円（前年度より1.1%減）となっています。



収入 13億5635万円
支出 12億396万円

年間1人当たり108㎡を配水

令和元年度末現在の給水人口は6万3956人で、給水戸数が2万5177戸。総配水量は692万7248㎡で1日最大配水量2万7624㎡でした。収益的収支は収入総額13億5635万円に対して、支出総額は12億396万円で、差し引き純利益は1億5239万円です。

次に資本的収支は収入総額2億4244万円、支出総額6億3574万円で、不足額3億9330万円は当年度分損益勘定留保資金などで補填しました。



歳入 9億7828万円
歳出 8億6247万円

整備率は89.2%

下水道事業は、西鉄柳川駅周辺と旧柳川市街地を中心に都市計画事業の認可を受けた区域で、現在も整備中です。令和元年度末では、事業認可区域内の89.2%を整備しました。昨年度の年間下水処理量は、98万4096㎡。同じく決算額は、歳入総額9億7828万円、歳出総額8億6247万円で、差し引き1億1581万円の黒字決算となりました。なお、この差し引き額は、引継金として今年度から公営企業会計へ移行しました。

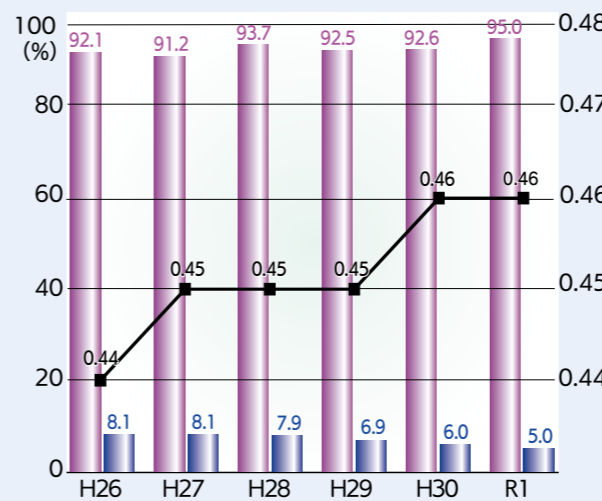
市の「お財布事情」を さまざまな指標でチェック



財政指標の推移

令和元年度の経常収支比率は95.0%、実質公債費比率は5.0%、財政力指数は0.46となりました。

- 経常収支比率 財政構造の弾力性を見る指数。この数値が低いほど財政にゆとりがある
- 実質公債費比率 標準的な財政規模に対する負債返済の割合
- 財政力指数 財政力を現す指標で「1」に近いほど財源に余裕がある



基金と市債の残高の推移

市の貯金である基金と借金である市債の残高です。令和元年度末の基金残高は約128億円、市債は約324億円となりました。市債のうち約252億円は、交付税により補填されます。

- 基金
- 市債
- 市民1人あたりの基金
- 市民1人あたりの市債

